

令和3年（2021）

■ 11月12日（金）

今年度調査の終了が近づきました。調査の成果を多角的に分析するために、各分野の専門家をお招きして、分析試料の採取など、分析の準備作業を進めています。

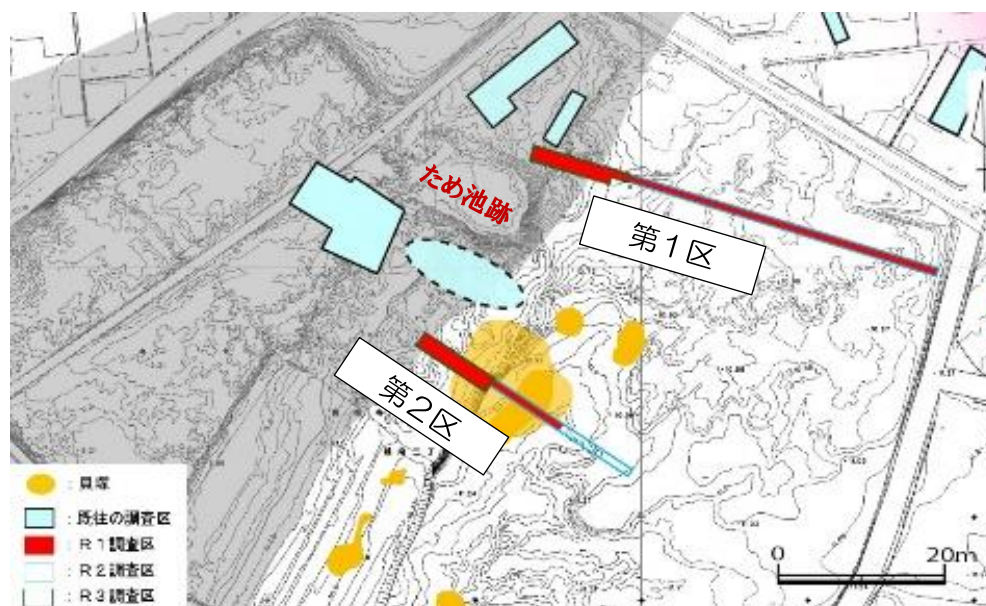


図1 調査区の位置

① 塩づくりの痕跡調査とサンプル採取

今日は縄文時代の専門家をお招きし、調査状況をご指導いただくとともに、本遺跡における製塩活動の痕跡を確認するためのサンプル採取を実施していただきました（写真1）。

塩づくりを確認するための試料採取は、2区（南側調査区）にある貝層で実施しました。11月10日に貝層のサンプルを採取したのと同じ貝層です。貝層分析のための採取地点から東側約1mのところ（写真2）。

本地点も、ヤマトシジミを主体とする後期中葉の複数型式の貝層が累積しており、貝層の上層から現在の調査面まで合計4か所、異なる層から分析用のサンプルを採取していただきました（写真3）。

令和3年（2021）



写真1 塩づくり分析のためのサンプル採取の様子



写真2 サンプル採取の範囲（黄色い枠から4か所を採取します）



写真3 サンプル採取を終えて

縄文時代後期の塩づくりでは、海草を利用していたらしいことがわかってきました。海草には特徴的な微小生物が付着しています。その生物の遺体が採取したサンプルの中にどれくらい含まれているのかを調べることで、真福寺縄文ムラの中で塩づくりが行われていたのかどうかを検討する材料が得られます。これまでも報告してきたように、今回の発掘調査でも塩づくりに使われた製塩土器が出土しています。塩づくりの道具と塩づくりの場所や方法の探索を並行して進めることで、真福寺貝塚の人々の資源利用の実像に迫ってまいります。